

国際ロータリー第2580地区 (東京・沖縄)

東京武蔵村山ロータリークラブ

Tokyo-Musashimurayama Rotary Club

週報 No.1632

2005—06年度 国際ロータリーテーマ 「超我の奉仕」 RI 会長 カール・ヴィルヘルム・ステンハマー

国際ロータリー 第2580地区



東京武蔵村山ロータリークラブテーマ

2005-06年度ガバナー 古宮 誠

「協調性あるクラブ活動を」

SERVICE Above Self

第34代クラブ会長 後藤 正次

9月は新世代のための月間です。

本日の例会
卓話 東大和警察署

第1633回
例会
2005. 9. 21

次回例会案内【10月 日()】
ゲートボール大会

第1632回例会報告 (2005年9月14日)

司会 比留間 重次 SAA委員

点鐘 (芦川 征史 副幹事)

斉唱
奉仕の理想 (ソングリーダー 峯岸 一郎 会員)

来客紹介 (小野寺 一昭 副会長)

○卓話講師
武蔵村山市教育委員長 伊藤 舜一 様

出席報告 (川島 利男 出席副委員長)

会員数	出席者数	出席率	前々回出席率修正
32名	25名	81.25%	なし

○事前メーキャップ
見延 壽昭 会員→東大和RC

会務報告 (小野寺 一昭 副会長)

- ハリケーン「カトリーナ」災害義援金のお願いが届いています。
- ローターアクト 第37回 年次大会の案内 各自メールに案内パンフレットが入っています。登録される方は事務局までお申し出下さい。
- 福生中央RCより10周年記念誌を頂きました。(各自メールボックスに入っています。)

幹事報告 (原田 友義 幹事)

- 第3回 分区連絡会の案内
・10月6日(木) 16:00~ 掬水亭
* 地区委員の確認を必ずして下さい。

委員会報告

- 会報・雑誌委員会 (比留間 孝司 委員長)
ロータリーの友9月号より記事紹介させて頂きました。
- 社会奉仕委員会 (田中 伸彦 委員長)
10月2日のゲートボール大会につき、本日例会終了後、練習を行ないますのでよろしくお願い致します。また、当日の出席につき、確認と御協力をお願い致します。

◇創立 1972年7月8日 ◇承認 1972年7月20日
◇スポンサークラブ 東京立川ロータリークラブ
◎会長 後藤 正次 ◎幹事 原田 友義
○副会長 小野寺 一昭 ○副幹事 芦川 征史
□会報雑誌委員長 比留間 孝司 副委員長 野島 征
委員 渡辺 洋司 宮崎 茂夫

◇例会場 西武信用金庫・村山支店2階
〒208-0004 武蔵村山市本町2-91-1
◇例会日 毎週水曜日 12:30~13:30
◇クラブ事務局
〒208-0004 武蔵村山市本町2-91-1
TEL 042(520)3251 FAX 042(520)3252
Eメールアドレス t-mmrc@crest.ocn.ne.jp

1. 現状と課題

子供たちの教育について言えば、生活指導面と学習指導面がある。この二つは相関関係が強いが、ここでは分けて話しをします。

1) 生活指導面

現状では、基本的に生活習慣の乱れがあります。時間を守れない子供、朝食を食べずに登校、また、保健室へ行く子供が非常に多いということです。それから、不登校すなわち学校へ行けない子供達が多いのです。16年度は小学生18人（東京都全体では1803人）中学校59人（同6893人）です。また、中学生の午後11時以降の深夜徘徊の増加（東大和署管内200人）、学校外での非行・万引き・飲酒（中学生）・喫煙（中学生）不純異性交遊等見過ごすことが出来ないことが多くあります。

2) 学習指導面

東京都教育委員会が17年1月に実施した学力調査の結果、当市は23区26市49区市中、49位と最下位でありました。小学生では国語49位、算数49位・社会49位・理科49位、4教科総合で49位最下位でした。また中学校では国語48位、数学49位、社会48位、理科48位、英語49位、5教科総合で49位最下位でした。このことから教育委員会ではこの結果を深刻に受け止め、現在いろいろ対応策を講じているところでございます。その一つに結果を分析したところ次のようなことがわかってきました。小学校では国語、特に言語事項が低調。算数では数量関係と知識技能が劣る。小学校の学力は基本的な生活習慣との関わりが深いので、特に家庭との連携が重要であります。小学校の段階では読み、書き、計算（そろばん）の力が不足しています。中学校では国語は一樣に低調。数学は知識技能面が劣る。英語も一樣に低調。中学校の学力は他の近隣の市と大差はございません。これは中学2年生のテストの結果でありますので、生徒自身の自立的自覚が高いと考えられます。

2. 方策と展望

1) 基本的な考え方

武蔵村山市の子供たちの学力を高めるためには、学校がその中心的な役割を担うこととなりますが、家庭及び行政が共にそれぞれの役割を發揮し連携を図りながら、子供たちの生活全体の中で考えることが大切です。子供たちにとって、毎日の生活が規則的で、安定したものであることが、学力向上の基盤となるからです。

2) 子供たちの実態

- ① 授業の内容がわからないとき、そのままにしてしまう子供たちが多い。
- ② 授業が楽しいと思っている子供たちが、小・中学校共に各教科5割から6割にとどまっていること。
- ③ 夜更かし、テレビ漬けの傾向があること。
- ④ 家庭学習の時間が極めて短いこと。
- ⑤ 自分に自信が持てない子供が多くいること。



3) 学校の学力向上策

- ① 学校経営改革
- ② 教員の指導力アップ
- ③ 家庭との連携

4) 教育委員会による支援

- ① 学力調査の実施と情報提供
- ② 学校経営の支援
- ③ 啓発パンフレットの配布
- ④ 学力向上推進委員会の設置

3. 具体的展望

1) 基本的な生活習慣の定着

家庭における5つの実践として次のことを本年4月に各保護者に通知いたしました。その5つとは ① リズムある生活を送らせよう ② 学習時間を確保し、毎日勉強させよう ③ 読書時間を確保し、本に親しませよう ④ 得意分野を見付け、伸ばそう ⑤ 子供との対話を大切にしよう ということです。

2) 学習習慣・学習規律・教師の意識改革・教師の指導力・情熱・児童生徒への愛情・分かる授業（生徒は丁寧に教えてくれる先生を求めている。）

3) 結果で勝負・説明責任・小学校と中学校の緊密な連携・義務教育としての小中一貫教育（子供たちは全課程を終了していても、全課程終了と卒業させている。中学に入っても小学生時代やってきたことが分からない子供が多い。）

4) 優れた子供を更に伸ばす工夫・遅れがちな子供への学習支援・ハングリー精神・感謝される教師（仰げば尊し我が師の恩、現在歌っている学校は3中と2小です。他は学校の教員が反対なのです。感謝される必要がないとのことです。）学校への愛着・郷土（故郷）への愛着が本当に大切。学校教育と社会教育の連携と融合、地域に開かれた学校（学校が地域に発信することによって信頼される学校になるのではないか。）

最後に一番大事なことは誇りを持つことである。自分が武蔵村山市民として、自分一人一人の誇りがあることによって、また上級生として、中学生としての誇りを持つことによって、そのことが支えとなり悪の道に入らないのではないかと考えます。このことについては、社会や地域の皆様、保護者の皆様の協力によって培っていかねばなりません。ロータリーの皆様今後ともご協力、ご支援を賜りたいと存じます。

[担当：宮崎 茂夫]



ニコニコBOX (峯岸 一郎 親睦委員)

榎本昭会員⇒お誕生日も60歳代最後の年となりました。
お祝いは素直に受けることにしています。
比留間孝司会員⇒妻の誕生日を頂き有難うございます。

◆ 今回計 10,000円 累計 400,000円